



●ガバナー 長嶺 康廣 ● 会長 吉田 立盛 ● 幹事 平光 清美 ● コミュニケーション委員長 三浦 晃

ホームページ：http://www.hi-net.ne.jp/~hsrclub/ Email：hsrclub-2830@cd.hi-net.ne.jp

Facebook ページ：https://www.facebook.com/hachinoheminamirc/

Facebook ページに「いいね！👍」をお願いします。

RI 第 2830 地区ホームページ：http://www.rotary-aomori.org/2016/

第 2007 回 例会 記録

《ポールハリス追悼例会》

2017 年 1 月 26 日 (木)

点鐘 12：30

レポート No. 1439



桜田 S A A

四つの反省

- 1) 真実だったか どうか
- 2) みんなに公平だったか
- 3) 好意と友情を深めたか
- 4) みんなのためになったか どうか



石橋職業奉仕委員長

《会長要件》吉田立盛会長



今日の例会はポールハリス追悼例会ということで長嶺ガバナーにお話をいただくことになっています。長嶺ガバナーよろしくお願ひ致します。来週はいよいよよろず相談です。当クラブの行事の中で一番大きいと言いますか、一番長くやっている奉仕プロジェクトのよろず相談があります。相談員になっている会員の皆さんありがとうございます、一日よろしくお願ひ致します。今日の夕方よろず相談の告知、PRでBeFMについてラジオで宣伝する予定になっており大変緊張しています。BeFMへの連絡は久保田会員に取っていただきました、ありがとうございます。皆さん 5 時過ぎくらいに緊張してしゃべっている私の声が聞こえると思いますのでお時間のある方は聞いてください。広報はちのへにもよろず相談の告知を載せていただいています。明日から予約の受付が始まりますので事務局の伊藤さんよろしくお願ひ致します。広報はちのへを見ていたところいつもお世話になっているパークホテルの松浦さんが市の卓越技能者で表彰を受けていました。給仕従事者ということで一級レストランサービス技能士の資格を有する数少ない女性の資格取得者であり、将来の第一人者として期待されているということです。おめでとうございます。

《幹事報告》平光幹事

- ・第 2830 地区 2017-18 年度ガバナー佐々木千佳子様よりサンディエゴ国際協議会が始まりましたと、エアメールが届いています。
- ・三八五流通グループの泉山会長より新年互礼会出席のお礼状が届いています。
- ・2017 年 2 月のロータリーレートは 1 ドル 106 円です。
- ・ハイライト米山が届いています。
- ・来週はよろず相談で 2 月 2 日の例会は例会変更で 2 月 4 日 18 時 30 分ワシントンホテルです。よろず相談の相談員の皆様は 11 時 30 分までにお集まりくだ



《出席報告》原委員長



正会員数 41 名。本日の出席は免除会員 2 名を含む 21 名、寂しい 53% です。前々回の例会は新会員歓迎例会でした。

さい。

・2 月 9 日の理事会では定款細則を使いますので持ってきてください。

《ニコニコボックス》西尾委員

吉田立盛会長：長嶺ガバナー今日はよろしくお願ひ致します。

平光幹事：長嶺ガバナー本日はよろしくお願ひ致します。

鈴木会員：ポールハリスに感謝して！

本人誕生日：近藤会員



《上期会計報告》熊谷会計

(資料に沿って報告)



《会員卓話》長嶺ガバナー

今日はポールハリス追悼記念週間でポールハリスの「ロータリーへの私の道」ということでお話ししたいと思います。ご存知のように 1 月は大きな枠では職業奉仕月間ですが、明日 1 月 27 日はポールハリスの命日です。この 1 月 27 日を含む 1 週間がポールハリス追悼週間になっております。1947 年 (昭和 22 年) の 1 月 27 日にポールハリスがお亡くなりになり 1989 年 10 月 - 11 月の理事会で毎年この 1 月 27 日を含む 1 週間を物故ロータリアンの冥福を祈り生前の貢献を記念する週間として追悼記念週間として指定されたとい



うことです。私の手元に「ロータリーへの私の道」というポールハリスの自伝の本がありますが、これは「MY ROAD TO ROTARY」という本の復刻版を第2620地区（山梨、静岡地区）の甲府北ロータリークラブさんがRIの許可を得て作ったものです。1,000部をロータリー文庫に寄贈して欲しい方に配布したもので、2,3年前のロータリーの友に書いてあったものをたまたま目にしたもので、会員の皆様全員にと思い50部注文したところ、だめですということで2冊いただきました。もう1冊は近藤会員へ差し上げました。この本をもとにどういう気持ちでポールハリスがロータリーを作ったかというお話やポールハリスの人格形成に影響を与えた幼年期のお話などをご紹介したいと思います。一番いいのはこの本を読んでいただくのがいいのですか、本を全部読むと4、5時間かかりますので30分に要約してお話したいと思います。

ロータリーへの私の道 ポール・ハリス著【自叙伝】 1・少年時代（P1）

5歳の兄セシルと3歳のポール・ハリスと父は、父親の事業の失敗によって父方の祖父母の家が有るバーモント州ウォリングフォードという田舎町に身を寄せた。

妹のニーナ・メイは赤ん坊だったので母とポール・ハリスが生まれたミシガン湖に面したウィスコンシン州のラシーンという町で暮らした。

儉約を旨とするニューイングランド（17世紀にイギリスから渡った清教徒によって開かれた米国北東部6州）出身者である祖父は息子に1軒ドラック・ストアと住宅を与えた。父が経済的に困ると直ぐ手助けをし、この甘やかしが一つの原因となって父は事業に失敗する。

祖父母との生活（谷間の田舎町でのきちんとした家や愛情のこもった心遣い、質素儉約で熱心な清教徒の生活*1）がポール・ハリスの人格形成に影響を与えた。

P3「私は私で、全てにバランスが取れていて最高の理想を掲げると共に教育を至上の目的とする、きちんとした永続性をもった家庭の恩恵を受けるようになった」

ウォリングフォード高校卒業後、祖父に上の学校に行きたいと言ったら財政的な援助をしてくれる事になった。

その後祖父が亡くなり、しばらくしてある時祖母がポールに言った。（P11）

「おじいさんはあなたのお父さんに高い望みを掛けて、お父さんの教育に随分お金も掛けた。事業に失敗してがっかりしていたところに神様のみ心のようにあなたが生まれてきた。おじいさんは全ての望みをあなたに掛けた。あなたはおじいさんを裏切ってはいけないわ。一生懸命勉強しておじいさんの為に立派に生きて頂戴よ」

その後まもなく祖母も亡くなった。

2・放浪生活の5年間（P13）

祖母の亡くなる1年前アイオワ大学法学部の学生になった私はアイオワに行く途中シカゴに1週間滞

在した。この雑踏を極めた西部の都会の落ち着いた無さと邪悪さとが怪しい魅力を持って私を捉えた。バーモントの田舎の谷間とは全く違う世界でした。しかしシカゴの町に何か活力を感じた。 P14

シカゴは人々の生き方を学べる場所でした。人間の生き方に影響を与える動機とは何なのでしょう。なぜ良い人と悪い人がいるのでしょうか。なぜ自分を犠牲にして人の為に尽くす人がいるのでしょうか。なぜ体力や精神力や道徳心を浪費する人がいるのでしょうか。彼らはそれから何を求めるのだろう。

1891年6月アイオワ大学法学部を卒業したが在学中夢中になったのは「世界中の人間の様々な生き方を知りたい」と言う事であった。卒業式での先輩の助言（*2）から世界中行けるところはどこへでも出かけて5年間バカになってやろうと決めた。

サンフランシスコ・カリフォルニア・トレールレス山脈300マイル徒歩旅行・ヨセミテ渓谷・ロサンゼルス・デンバー・ジャクソンビル・ケンタッキー・テネシー・ジョージア・バージニア・ヨーロッパ・・・旅費は旅先でアルバイトをして稼ぎ多くの知人にも出会いこの事が後に大きな財産となった。

アメリカに帰り1893年シカゴ万国博覧会を見てシカゴと言う、人々を惹きつけてやまないこの大都会の持つ将来性を確信した。

3・弁護士事務所の看板を掲げる（P25）

放浪の5年間が終了し弁護士事務所を開くつもりで1896年にシカゴにやってきた。

P25「実業や専門職業に従事する人々の世界的な親睦を実現しようというビジョンはまだだったが、私の心は既に悪の中にも多くの善を見出し不毛の場所でも多くの友情を培う事が出来た。実業家の人々の中にも信頼と誠実を期待できる十分な裏付けを見出した。」

シカゴはひどい時期を経験していたが私の放浪時代よりはひどくは無かった。また法律の仕事をするために看板を出したが初めはお客さんゼロからスタートし、やがて1人の弁護士と共同経営にし、更にパートナーを増やし、弁護士協会や記者クラブなどの会員となり商工会議所でも活躍するようになりました。P27

「とりわけ日曜や休日は、恐ろしいほど孤独でした。シカゴに出てきている農村出身者や大学出の中で気軽に友人や隣人と付き合う喜びを知っている若い人々と知り合う道は無いものかと色々考えていた。」

自分が少年時代を過ごしたウォリングフォードの田舎を見てみたくなり帰省し、懐かしい人々との再会や思い出の地を訪ね歩いた。山の斜面で寝転がって静かに物思いに耽り祖父母の基本的な考えは「完全、儉約、寛容、無私」と言った言葉だったと思い当たった。

4・最初のロータリー・クラブ（P33）

シカゴでの生活はウィークデーには仕事が忙しくて自分の事を考える暇が無かったが、日曜や休日は物悲しい日でした。日曜の朝は下町の教会へ行けば良かったが午後はどうにもならない程、孤独でした。故郷の谷間の野原や心優しい昔の友人が思い起こさ

れた。日曜の午後の公園程孤独を感じさせるところは有りませんでした。知らない人々が沢山いることが返って孤独感を強めたのです。

「知り合いは出来ても本当の友人は出来ません。私に一つ肝心なものが欠けていました。それは友人だったのです。」 P 3 4・P 3 5

人間を巡る様々な事態は苦しむことによって好転する。誰かがまず、なすべき必要な事をビジョンとして頭に描くと、そのビジョンを苦しみが一層明らかにしてくれる。人間は同類の人々と友人関係を持たなければならないと言う事が私にもはっきり解った。

このシカゴに農場や小さい村から出てきて、そういう人々が私と同じように友人を作りたいことを求めているのなら、そこから何か生まれてくるのではないか。

ある晩、私は同業の友人の郊外にある自宅を訪ねた。P 3 5

夕食後、近所を散歩していると、友人は店の前を通る毎に店の主人と名前を呼んで挨拶をするのです。これを見て私はウォリングフォードの故郷を思い出した。その時浮かんだ考えはこの大きなシカゴで様々な職業から一人ずつ政治や宗教に関係なくお互いの意見を広く許しあえるような人々を選び出して、一つの親睦関係を作れないものだろうか。こういう親睦関係ができれば必ずお互いに助け合う事になるはずだ。(寛容と親睦)

1905年2月、3人の若い実業家を呼んで会談し、私達全てが自分の村で知っているような、お互いの協力と気取らない友情を深めるための簡単な計画を彼らに提示したら彼らは賛成してくれた。そしてこのグループの3回目の会合でクラブの名称を「ロータリー」とした(*3)。それは会員それぞれの事務所や仕事場で代わる代わるの会合を開いていたからである。

シカゴ・クラブの3年目に会長になった私の抱負は ①シカゴ・クラブをもっと大きくすること ②この運動を他都市にも広げる事 ③クラブの目標の一つとして社会奉仕を強化してゆく事でした(*4)。

私の受けた報酬は、世界中に友人が出来た事です。少年時代にあの故郷の谷間で聞いた「おはよう、ポール」という挨拶が今では仲間のロータリアンからの挨拶であり、相手が金持ちであろうが、貧乏であろうが、若い人であろうが、老人であろうが私の耳に気持ちの良い音楽として響き続けるのです。

P 3 8 面倒な意味のない制約は振り捨てられ、もったいぶった取り繕いは入口で断られます。会員たちは皆少年に戻る訳です。私にとってクラブの集會に出席することは、故郷のあの谷間の家に帰ると同じことだったのです。

ロータリーの考え方はどんどん広がって、その理想はきちんと系統だてられ、その目標は綱領として提示されていますが形式ばらない心からの親睦がロータリーを作っていく上で欠くことのできない要素であることに変わりはありません。

ヘンリー・ブラッドン卿が言われた通り

「ロータリーが、1人1人を成長させていく1つの

方法は、各人の中に少年の心を保ってゆくことである。善良な人たちの心の底には、必ず少年があって、その少年の人生に対する見方は素晴らしいもので、スポイルされておらず、偏見もなく、寛容であり、強い熱意と友好的な気持ちをちゃんと持っている。人が自分の心をしなやかに保ち、友人の良い所を見習っていく気持ちを失わなければ、全く老いさらばえると言う事はないだろう。ロータリーは人間の心の少年の心を生かし続け、自分を成長させてゆくよう、励まし、助けるのです」

最初のロータリアンは田舎出身の人が多かった。彼らは優しい心と友好的な精神からお互いを助け、主としてビジネスの中でお互いを助け、成功するように援助し会ったが、中にはそうでない人もいました。しかし全員が親睦をお互いの為になる事だと知ったのです。

シカゴRCの会員が増加するに従ってシカゴの断面図を持つようになった。会員1人1人が別々の立派な職業を代表して会員となり自分の職業の代表者として選ばれた事を名誉ある特典と考え、その責任も自覚していた。ロータリーは社会的な地位、宗教的信条、国籍を異にする実業家と専門職業人を集めてお互いに理解しあい更に多くの共感と友好をもって助け合うようになった。

ロータリー運動が始まる20世紀初頭(1905年)シカゴが悩まされていた悪はアメリカの至る所でみられた。ビジネスは毒され消費者や従業員、競争相手に関して高い倫理基準に合うようなことが行われていなかった(騙すのは善、騙されるのは悪)。自分たちの住む町を良くしようと言う精神はほとんど無かった。シカゴと言うアメリカ西部の大都会から人種的、政治的、経済的、宗教的な極端と極端とが出会い、衝突し究極的には何か均質的なものが出来上がりつつあった大きな社会の渦巻きの中からロータリーは姿を現した。

5・広がり始めたロータリー(P 4 3)

「世界中にロータリーを！」というポール・ハリスの夢は大学時代の級友と5年間の放浪時代にできた友人を頼りに町から町へ、国から国へと広がっていった。ロータリー運動を国際的な規模に持って行くに当たり5年間の放浪生活は大いに役立ちました。あの放浪が無かったら世界の都市にRCを作ろうと言うビジョンを持つことが無かったろう。やがてポールが考えていたロータリーの概念は進化の過程にあって徐々に変わっていった。以前は「楽しい親睦を強調」していて会員達もそれで満足していた。所が何かですっきり変わってしまった。「古い会員の考えを変えさせるよりは、いっそ新しい進歩的な考えで新しいクラブを作った方がずっと容易な事に思われた」

世界中にできたどのクラブも出来てみると「自分の町の為になる事が解ってこの考えを他の都市にも広げたい」状況でした。いくつかのクラブが集まって地区が編成され、地区ガバナーがロータリーの目標と活動を地区内に拡大する。

ロータリーはシカゴの都市でお互いの為、親睦の

為に集まった土地の人々のグループから、更に国際的なビジョンと本当に崇高な目的を持った組織へと次第に発展していった。死んだも同然であった都市や町がRCを作ってから新しい生命を持つようになった。

6・ロータリーの設計者と施行者（P52）

シカゴRCのチェスリー・R・ペリーは（1910年～1942年までRI事務総長）「世界中にロータリーを」と言うポールの夢を実現させる為に飛びぬけた活躍をしてくれた。16のRCの代表が出席した第一回ロータリー大会（1910年）で定款と細則が起草され代表たちはロータリーの意味と可能性を論じ合って採択した。

（P55～）ロータリーの特色は会員が一つの実業、あるいは専門職業の代表一人に限られるという職業分類計画だと考える。「ロータリーはどうして、その会員を1業種1人に制限するのか」その理由はこの職業分類によるやり方が気の合った親睦を生むのに役立つビジネスや専門職業の嫉妬心を回避し、お互いに助け合う事を助長し、各自の仕事の尊厳に対するプライドを刺激し、更に他の仕事の業績と問題点に関し、考え方と共感を広げることが体験的分かったからである。ロータリー会員になればあらゆる実業や専門職業の人達と接触して、視野の広がるような影響を受ける事が出来るし、また同時に「ロータリーの奉仕の理想」（*5）を、自分の職業に持ち込む責任も有ります。

献身的で有能なロータリアンが「奉仕の理想」によって結ばれた実業家や専門職業の世界的な親睦を図ると言う私の理想を拡大発展させる為に重要な貢献をした。

シカゴのアーサー・フレデリック・シェルドンは、「最も良く奉仕するもの、最も多く報いられる」と言う標語を考えてくれた。ミネアポリスのロータリアン達は「超我の奉仕」と言う簡潔な標語を考えてくれた。

2番目のRCができる前、私たちは社会奉仕の重要性を考えてシカゴ市内に公衆便所を設置した。

7. 二度の大戦とロータリーの奉仕（P67）

1910年のシカゴ大会の後1年以内に米国のクラブ数は28になった。翌年カナダとロンドンが加わりクラブ数は50になった。第一次世界大戦でもイギリスやカナダのRCは自分たちが戦時にも価値ある存在であることを示した。ロータリーの最高の目的は奉仕する事であり中には戦時中は昼食会を止めようと言うロータリアンもいたがロータリーの昼食会は志気を盛り上げるための拠り所であり、より大きな奉仕を計画する場所でもあると分かったのです。やがてロータリーは全世界に広がりを見せ、あらゆる人間を包む友情とか、全ての国家や人種の違いを全て許す「寛容の精神」が育っていきました。次の10年間の世界大恐慌でロータリーの集まりは疲れ切った実業家がお互いに新しい勇気を与えあう親睦の場所となったのです。第二次世界大戦では世界各国で爆弾をくぐって例会が行われロータリー精神は引き継がれていった。

8. チェスタートン氏に感謝しよう！（P80）

ロータリーの「善行」は「善意の力」で存在している。私がニューイングランドの故郷で経験したような古い形の「友情や隣人愛の世界」に幾多の人々が生まれ変わった。ロータリーの考え方によるとビジネスは人生の主要な部分ではあるが人生の全てでは有りません。ロータリーの哲学は健全な哲学であり、人生を豊かにすることを望んでいます。

職業分類によって会員を選ぶと言うやり方は、ロータリーの運動に対して、その倫理的な理想を社会に奉仕するあらゆる職業に属する会員以外の一般の人々にまで投げかける機会を与える事に成ります。ロータリアンの一人一人がロータリーの理想主義と自分の職業とを結ぶ輪の役割をする。自分と同じ職業に従事する他の一般の人々にその職業の最高の基準（職業倫理）を作り上げる仕事に協力してもらうという責任も持つ。

ロータリーは各国間の理解を促進するための努力として、「相互に関心を持ちながら仲良く付き合うという方法」を強調しています。地位や身分に関係なく人々が同じ平面で付き合いをするロータリー独特の雰囲気の中で仲間の会員と挨拶をする場合にファーストネームで呼び合い友情は益々深まっています。

異なった人種のグループや違う宗教の教えの人々との間により良い理解を促進する為に「会員達が一致していない事柄よりも一致している事柄に集中する」と言うのがロータリーのやり方です。ロータリーの影響力は近隣都市同士の代表的な実業家がIMを通して協力的な関係を生み出す事に貢献してきてロータリーの特色の一つになっている。ロータリーは利害が相反する場合に対立する双方を親睦の雰囲気の中に誘うという簡単な方法で驚くべき成果を生み出してきた。

4(5)大奉仕は「奉仕」を達成させる手段です。人々の考え方は其々違うので指導者は自分の判断を忍耐と自制心を持って練り上げていかなければなりません。独断で物事を決めるロータリーでは役に立つはずはない。ロータリーの交流ではロータリー・クラブの会合にきちんと出席する人は、この友好的な交流接触によって自分の人生が豊かなものとなり、自分の心理的、道徳的な物の見方がロータリーの文化的なプログラムによって改善されていくのに気づくはずで。

ロータリーは政治や宗教で差別することは一切ありません。議論のある問題に対して会員は其々意見を言う権利を与えられています。しかもそれぞれが他人の見解に寛容で、無私で、友好的です。ロータリーは友情と言う土台石の上に建てられたもので有り、寛容の精神がロータリーを結びつける要素なのです。ロータリーを結びつけているのは、私の祖父が一生を貫き通し、またそこから私の信念も飛び出してきたあの「寛容の精神」なのです。

ロータリーが実業家と専門職業人との世界的な親睦を作り上げるのを可能にしたこの寛容の精神をもってすれば世の中に不可能な事はなくなるでしょう。ロータリーは私と妻に「友情と、地には平和を、人々には善意を」と言う考えが必ず来ると確信させてく

れました。

9・カムリーバンク（P93）

シカゴ郊外の新婚時代の新居につけた名前

私が言いたいのは、「ロータリーは、私の少年時代のニューイングランドの人々の特性であった寛容と善意と奉仕の精神から生まれたもので有り、私はその精神のうち自分の中にあるものを全て自分なりに伝えようとしてきた」と言う事です。

* 1. ニューイングランド地方（マサチューセッツ・ロードアイランド・ニューハンプシャー・コネティカット・メイン・バーモントの6州）

16～17世紀のヨーロッパは宗教革命の時代であった。1509年に即位したイギリスヘンリー8世は王妃との離婚をローマ教皇に認めてもらえなかったことでこれと絶縁して「イギリス国教会」を設立した。ドイツのルター派やスイスのカルヴァン派がローマ・カトリックの教義に反発して独自の宗教思想を磨いたのと異なり国王の個人的な思惑のもとに設立されたイギリス国教会の教義は伝統的なカトリックのそれと大差なかった。イギリスの宗教界は国王御用達のイギリス国教会、ローマ教皇に忠誠を誓う伝統的なカトリック、国教会を「生温い」と考えるカルヴィン派の「ピューリタン（清教徒）」の3派が激しく抗争する。ピューリタンにも2つの流れが有り腐敗墮落したイギリス国教会から完全に分離した自分達だけの宗派を作ろうとする「分離派」とイギリス国教会をあくまでその内部から改革しようとする（非分離派）である。イングランド中部のスクルービ村に住む分離派の一集団はイギリス国王の迫害を受けて宗教的に寛容なオランダへ集団移住を果たしたがやはりイギリス国民としての生活を送りたいと考えて、イギリス植民地の辺境で誰にも邪魔されない新天地建設の方向に落ち着いた。彼らは清貧であった。

* 2. 人生の転機

アイオワ大学卒業式の記念講演で卒業生の弁護士の言葉、まずどこかの小さな町に行ってそこで5年間バカになってみる。そしてその上で自分の好きな都会に出てそこで本当に業務を始めると言う考えは意外に賢明な計画だ。

* 3. ロータリー綱領

1905年2月シカゴRC創設

1906年1月シカゴRC定款制定2ヶ条（綱領を兼ねる）

1. 本クラブ会員の事業の利益の増大・・・事業の助け合い

2. 通常社交クラブに付随する親睦及びその他の特に必要と思惟する事項の推進・・・親睦同年追加

3. シカゴの最大の利益の推進、及び市民の誇りと忠誠とを市民の間に広める事。・・・社会奉仕

* 4. 最初の綱領

1910年全米16クラブの連合体として全国ロータリー・クラブ連合が結成され最初の綱領が採択された。

1. アメリカ全土に加盟ロータリー・クラブを結成することによりロータリーの原則を拡大伸展させる事。・・・会員増強

2. アメリカ全土の加盟ロータリー・クラブの仕事及び原則を統一する事

3. 市民の誇り及び忠誠を鼓舞激励すること。・・・社会奉仕

4. 進歩的でかつ尊敬され得る営業方法を推進する事。・・・事業の助け合い

5. 加盟ロータリー・クラブの会員個人の事業の利益を増大すること。・・・事業の助け合い

* 5. ロータリーの奉仕の理想

個人生活、社会生活、職業生活において利己的欲求は最小限に止め、常に最大利他の究極を求め続けて行こうとするロータリーの奉仕哲学

（「ロータリーへの私の道」

RI 第2620 地区甲府北ロータリークラブ復刻版より）